

令和元年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和元年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 133人

② 数学 133人

③ 英語 133人

5 留意事項

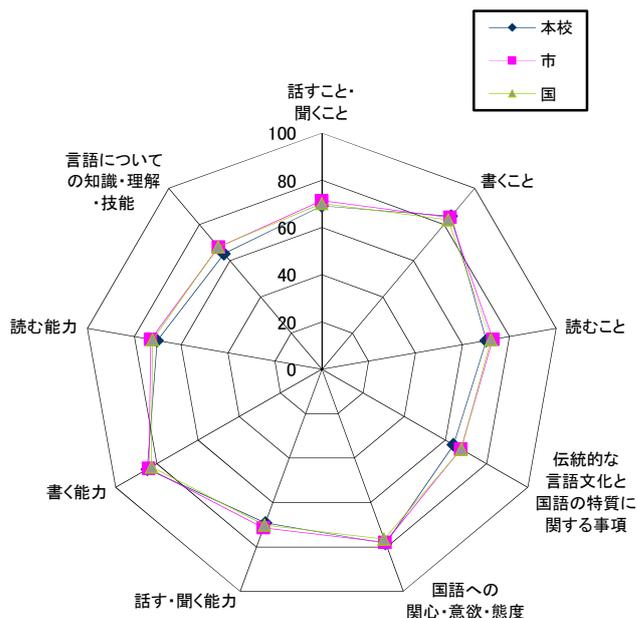
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率 令和元年度

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.2	71.4	70.2
	書くこと	84.6	83.9	82.6
	読むこと	70.2	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.9	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	78.4	77.9	76.5
	話す・聞く能力	69.2	71.4	70.2
	書く能力	84.6	83.9	82.6
	読む能力	70.2	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	63.9	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

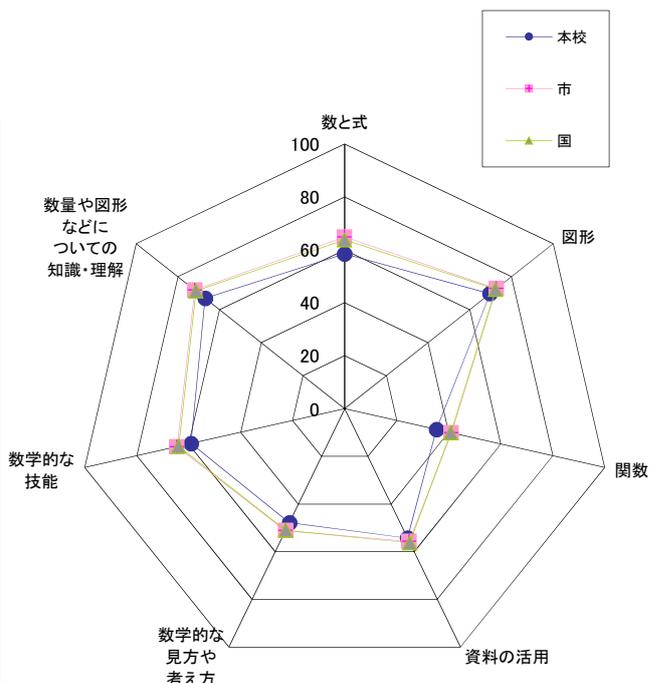
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○相手に分かりやすく伝える表現について理解する問題では、市や国の平均正答率とほぼ差がなかった。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題では、市の平均正答率を2.7ポイント、国の平均正答率を2.0ポイント下回った。	・聞いたことを踏まえて、そこから考えるということに結び付けることが苦手な生徒が多い。そのため、「聞いたことを踏まえて考え、自分なりに表現する」ことにつながるような、系統的な指導をしていきたい。
書くこと	○設問全体では、市の平均正答率を0.9ポイント、全国の平均正答率を2.0ポイント上回った。 ●伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題において、市の平均正答率を1.8ポイント、全国の平均正答率を1.7ポイント下回った。	・授業の中で説明された内容を書くことは定着してきているが、自分で文章を読み取って、必要な情報を書くということが苦手である。今後は、自分が書いた文章を読み返し、自分の回答が条件にあったものか、表記や語句に誤りはないかということに注意を払う習慣をつけさせたい。
読むこと	○文章に表れているものの、見方や考え方について、自分の考えを持つ問題では、市の平均正答率を1.1ポイント、全国の平均正答率を2.0ポイント上回った。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題では、市の平均を5.7ポイント、全国の平均を6.6ポイントと、大きく下回った。	・自分で情報を整理して、必要な内容を読み取ることが苦手である。書かれている問題の整理や、長い文章の選択肢の整理がつかないので、今後は授業中に実践的な問題に取り組み、解くための手段を学ばせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●封筒の書き方を理解して書く問題では、市の平均正答率を6.1ポイント、国の平均正答率を4.9ポイントと大きく下回った。	・中々手紙を書く習慣がないうえに、見慣れていないため、正解にたどり着く生徒が少ない。生活に必要な知識としてしっかり覚えさせたい。

宇都宮市立河内中学校第3学年【数学】分類・区別正答率 令和元年度

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	58.5	64.9	63.8
	図形	69.7	72.8	72.4
	関数	35.3	41.1	40.8
	資料の活用	54.3	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.8	51.1	51.0
	数学的な技能	59.1	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	66.9	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

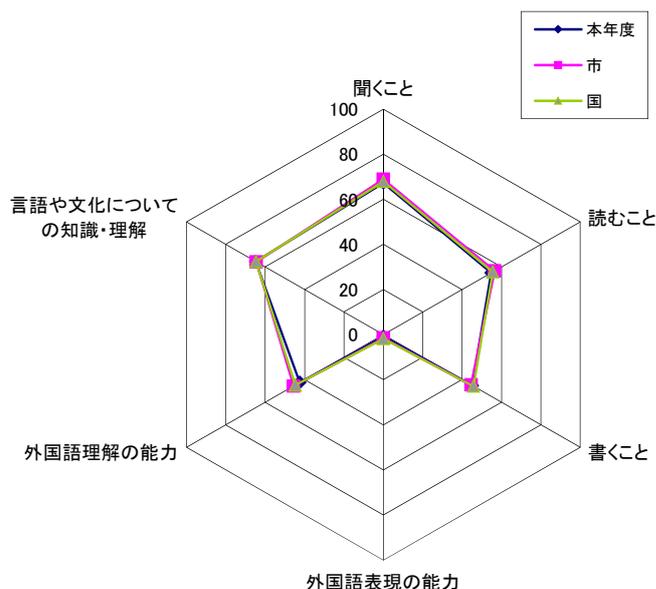
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率が市より6.4ポイント、全国より5.3ポイント下回っている。</p> <p>○数の集合と四則計算の可能性について理解しているかどうかを問う問題では、無回答生徒がいなかった。</p> <p>●市、全国との平均正答率を比較した場合、連立二元一次方程式を解く問題が最も差が大きく、市より3.8ポイント、全国より7.7ポイント下回っている。また、式を変形して説明する問題においても5ポイント前後下回っている。</p>	<p>・正負の計算や方程式など、基本的な計算問題の平均正答率は高いが、3の倍数になることを式を利用して説明するような問題では平均正答率が下がってしまう。</p> <p>・今後は、生徒の理解が不十分になってしまう原因を生徒間の学び合いの中から見つけたり、類似問題に数多く取り組んだりして、一人一人の理解力の向上に努めたい。また、文字式の計算の導入時に苦手意識を持たないような指導を心掛けていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率が市よりも3.1ポイント、全国よりも2.7ポイント下回っている。</p> <p>○平行移動したときの距離を求める問題での平均正答率は88%と高く、市より4.8ポイント、全国より4.4ポイント上回っている。</p> <p>●証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題では、市より11.1ポイント、全国より11.9ポイントと大きく下回っている。</p>	<p>・図形の移動に関しては理解できている生徒が多いが、三角形の合同条件を利用した証明は苦手である。特に、穴埋め式の証明ではなく最初から最後まですべて自分で考えるような問題では正答率が低くなる傾向がある。</p> <p>・今後は、基本的な証明問題を利用して、図形の見方や条件の記入の仕方、説明を書き進める順序など、一つ一つ丁寧に指導していきたい。また、基本問題に数多く取り組み、解ける喜びを味わわせたい。</p>
関数	<p>平均正答率が市よりも5.8ポイント、全国よりも5.5ポイント下回っている。</p> <p>●関数に対する苦手意識が強く、無回答率が9.8%と高い。反比例の表から式を求める問題では46.6%だった正答率が数学的に解釈して数学的に説明する問題では27.1%と20ポイントも下がってしまっている。</p>	<p>・苦手意識をもっている生徒が多く、理解するまで考える習慣が身に付いていない傾向がある。小学校で学習した比例・反比例の学習内容から丁寧に復習し、表やグラフの見方、読み取り方、式の表し方などを指導していきたい。また、学習内容の定着を図るため多くの課題に取り組み、各自が正しく理解ができているかどうか判断できるようにしていきたい。</p>
資料の活用	<p>平均正答率が市よりも1.4ポイント、全国よりも2.0ポイント下回っている。</p>	<p>・他の領域に比べ、平均正答率は市、全国に近い割合を示しているが、関連する内容が少なく、1年生で学習したあとは3年生で学習するまでほとんど学習しないことが多い。</p> <p>・今後は、数学の授業だけでなく普段の生活に取り入れ、アンケート結果の集計や調査を通して「最頻値」や「中央値」、「ヒストグラム」などの用語にも慣れ、日常生活に取り入れた学習を展開していきたい。</p>

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	67.3	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	54.8	56.5	55.6
	書くこと	45.2	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	0.8	1.5	1.8
	外国語理解の能力	42.4	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	64.8	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○状況描写について聞き取る問題では、平均正答率が市より0.8ポイント、国より1.4ポイント、また、対話を聞いて内容を選択する問題においては、平均正答率が市より8.3ポイント、国より7.4ポイントそれぞれ上回った。</p> <p>●家での会話を聞いて、その内容を表している絵を選択する問題においては、平均正答率が市より6.2ポイント、国より4.7ポイント下回った。</p>	<p>・日常的な場面について、情報を正確に聞き取ることができるよう同じような場面設定をし、対話する活動を取り入れることを意識した授業を心がけたい。</p> <p>・イラストや図を使った問題を取り入れながら、聞き取った情報を選択する学習を行っていきたい。</p>
話すこと		
読むこと	<p>○状況を描写する英文を読んで、内容に合った絵を選択する問題においては、平均正答率が市より3.3ポイント、国より1.5ポイント上回った。</p> <p>●説明文とその前後にある対話文を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題においては、平均正答率が市より4.2ポイント、国より5.0ポイント下回った。</p>	<p>・状況を描写する英文についての基礎的な理解はあるので、その知識を利用して、まとまりのある文を読める指導をしていきたい。</p> <p>・説明文の内容とその前後にある対話文を参考にしながら、中心となる事柄をとらえる問題では、まとまりのある文を読みながら、複数の情報から書き手が最も伝えたいことが何か判断するということから、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて読み取り方を身に付けられるような授業をしていきたい。</p>
書くこと	<p>○文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する問題においては、平均正答率が市より8.6ポイント、国より9.6ポイント上回った。</p> <p>●与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く問題においては、平均正答率が市より4.5ポイント、国より2.8ポイント下回った。</p>	<p>・接続詞は語と語、文と文を結束させ、文を構成する上で重要な役割を果たすものだとして理解しているので、正しい文を書くことでそれらの知識や技能を身に付けさせるような学習を行いたい。</p> <p>・主語を正しく選択することはできているが、語順や語法に誤りがあるので、基本的な語や文法事項を理解して文を書くような課題を取り入れた指導をしていきたい。</p>

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日同じくらいの時間に寝ていますか・起きていますか」の肯定回答率が高い。規則正しい生活が送られている生徒が多いことがわかる。朝食を毎日摂る割合が、2つの項目に比べて低いので、余裕をもって起床し、朝食を毎日摂ってこれるとより健康的な生活となり、気持ちの面でも充実することを指導していきたい。

○「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」の肯定的回答が90.7%である。学校行事が盛んな本校では、学級で様々なことを話し合い、やり方を決めていくことがどのクラスでも行われ、行事本番には学級が一致団結して全力で取り組む。そのためうれしさや充実感を味わうことができているので、今後も継続して指導していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答は、国や県より高い。上記の学校行事もそうだが、個々の生徒と真摯に向き合い、生徒の気持ちに寄り添う指導を続けていることが、良い結果の一因であると思われる。生徒を大切にし、気持ちを理解する努力を今後も続けていきたい。

○昼休みや放課後、学校が休みの日に図書館を週1回以上利用する割合が、市と国は8%台なのに対し、本校は22.3%である。学区内に市の図書館があることと、図書室で開催される様々な企画などにより、生徒が行きやすい環境が整っていることがその理由と考えられる。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の否定回答の割合が、市と国を上回っている。地域の活動を知らせたり、学級活動や総合的な学習の時間を通して、地域のことを学び考えていく時間を増やし、地域の一員としての自覚を促していく必要がある。

●「数学の勉強は好きですか」と「数学の授業はよくわかりますか」の否定回答の割合が高い。しかし、大切だと思う割合と社会に出た時大切だと思う割合も高い。生徒の現状と思いを踏まえ、指導の在り方を検討し、改善していけるようにしたい。

宇都宮市立河内中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的な小中一貫教育の推進 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校で連携した学習指導の充実 学校園授業コンセプトの定着・充実 ・ 授業力の向上 一人1授業の公開と校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教職員は、わかりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」、「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて適切な支援を行っている」、「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」に対する肯定割合が高い。（教職員）

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語科では、「根拠を明確にいて書く問題」「文章の展開に即して情報を整理し、内容をとらえる問題」に対する正答率が低い。</p> <p>数学科では、「関数を数学的に解釈して数学的に説明する問題」に対する正答率が低い。</p> <p>英語科では、「対話文を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題」に対する正答率が低い。</p>	<p>主体的、対話的に授業に取り組む生徒の育成を目指し、「考える力を育む言語活動の充実」について研究を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に「学び合い」の場面を取り入れることにより、一人一人が考え表現する機会を増やすとともに、コミュニケーション能力を高める。 ・ 読書の時間を確保することによって、生徒の感受性や言語能力の向上につなげていくとともに、落ち着いた学習に取り組む素地を養う。 ・ 作業プリント等を活用して、教科書の内容や教師、友人の発言を簡単にまとめたり、文章にして各作業を多く取り入れていく。